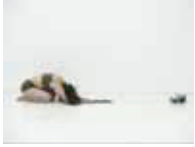
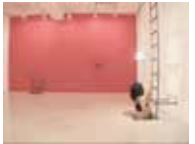


松井智恵 上映作品

**She dissolves**(35:56, 2000)

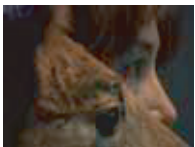
信濃橋画廊での個展で発表したインスタレーション作品「彼女は溶ける」の空間内で撮影した。床下の水面と床上とを、梯子を上り下りする松井の動作で結び、「間」にあるが、見えていない空間を意識させる反復のシリーズ1作目。

**She reaches** (40:26, 2000)

應典院で初展示。展示当時、映像スクリーンの向こう側には墓地が見えた。髪に結びつけた木の枝をひきずる松井。真っ白な空間の床での動作の反復の間に、食欲、性欲、睡眠欲を表す画像がごく短く挟み込まれる。動作を反復するシリーズ2作目。

**KOJIMA** (24:03, 2002)

石垣島で撮影。植物のみでできた小山のような小島の周りを歩いては寝ころぶ動作を繰り返す松井。海面のわずかな動きと植物の揺らぎに注意しなければ、静止画像による投影に見える。「彼女は届く」に続く反復シリーズ。信濃橋画廊での個展でインスタレーション作品のなかに組み込まれて映写された作品。

**KOSO-DORO** (13:29, 2003)

兵庫県立美術館のインスタレーションの中で撮影。四畳半ほどの部屋の中央に、裸電球が吊られ、その真下の床にマニキュアが一個おかれている。入り口には、床との間に隙間のある扉が蝶番で止められており、出入りするたびに、軋む音がする。部屋への出入りを繰り返した人物にマニキュアは使われ、最後に盗まれる。

**HIMARAYA** (36:46, 2003)

MEMでの個展で発表。画廊がはいる大正11年に建てられた文化財の新井ビルが舞台。身体に沿うような小さなスケールの階段を1階から4階まで這ってのぼり、仰向けになっておる動きを真上から撮影。当ビルで昔使用された古いドアの上に映像が投影される映像インスタレーションとして展示された。

**HEIDI 44** (37:37, 2004)

大阪港にある築港赤レンガ倉庫が舞台。ヨハンナ・シュペーリ原作「ハイジ」から松井が読み取った44歳(松井自身の年齢)のハイジとその物語の風景を、インスタレーションという「寓意の入れ物」に放り込み映像化した作品。人物の単純な動きと光の表現に加えて、部分的に音声と字幕スーパーでテキストが入っている。信濃橋画廊個展で発表。

**HEIDI 44 _ II** (6:54, 2005)

HEIDIシリーズ2作目。かつて女学校であった茨木の古い木造の建物で撮影された。現在は建築事務所として使われている。グループ展「IBARAKITAHAMA」にて発表。

**HEIDI 44 _ III** (7:38, 2005)

HEIDIシリーズ3作目。2作目同様かつて女学校であった茨木の古い木造の建物で撮影された。昇降機の周りの狭い足場で、サウンド・オブ・ミュージックの中からの曲をBGMに、食べる行為に没頭する松井。

**HEIDI 45** (15:00, 2005)

HEIDIシリーズ4作目。横浜、山下埠頭の倉庫群とその周辺が舞台。危険で生活感のない喧噪と、広大な空間そして間近に迫る海。HEIDI 44と似て非なる光景。横浜トリエンナーレ2005で発表。